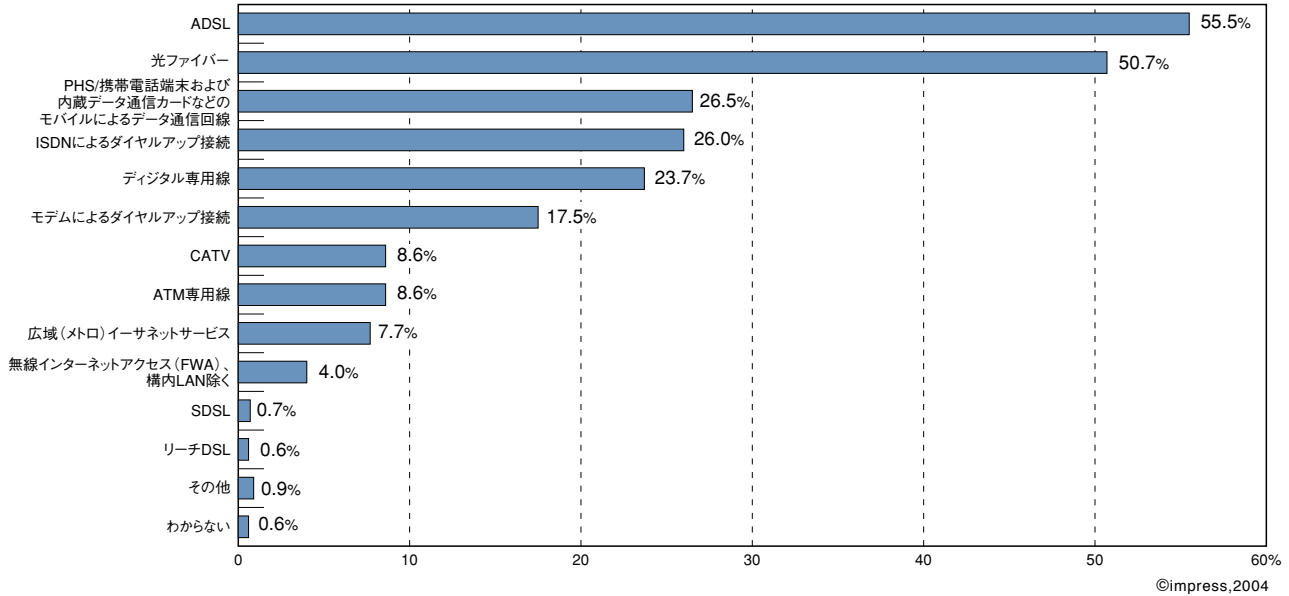


通信回線

インターネット接続回線はADSLと光ファイバーが突出

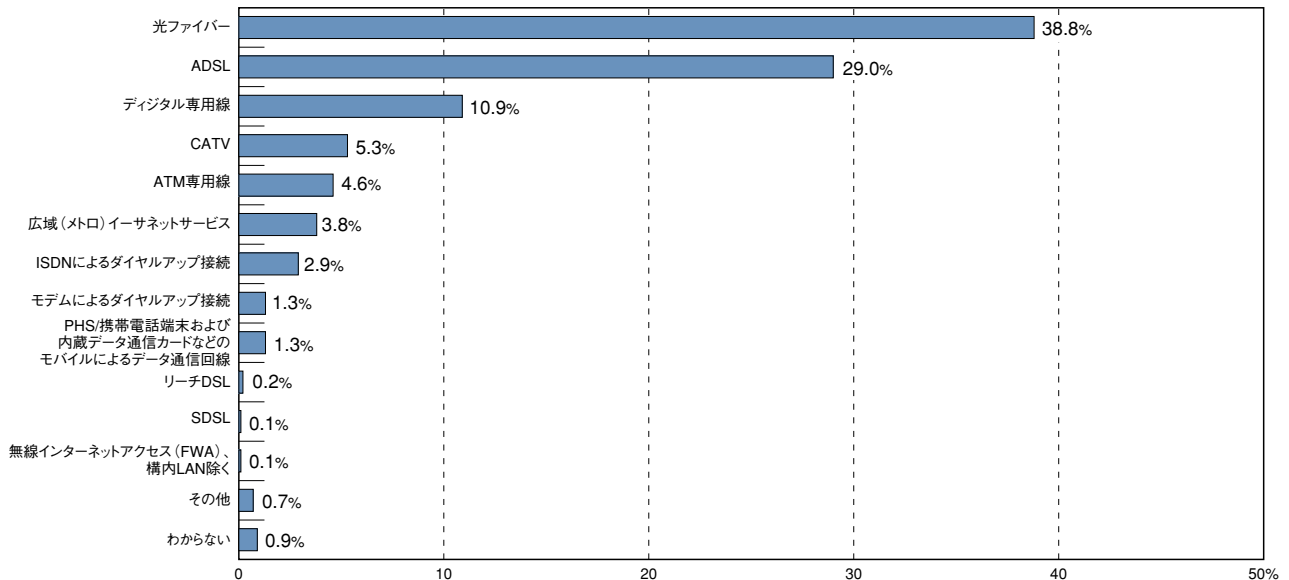
資料4-1-1 インターネット接続に使っている全ての通信回線 N=818



ADSLと光ファイバーによるインターネット接続サービスの利用が突出している。これは、今回の調査において、500人未満の事業所が約80%を占めていることからくるものである。ISDNやモデムによる社内LAN経由でのインターネットアクセスもまだまだかなり使われている。

CATVインターネットも健闘

資料4-1-2 インターネット接続に使っている主な通信回線 N=818

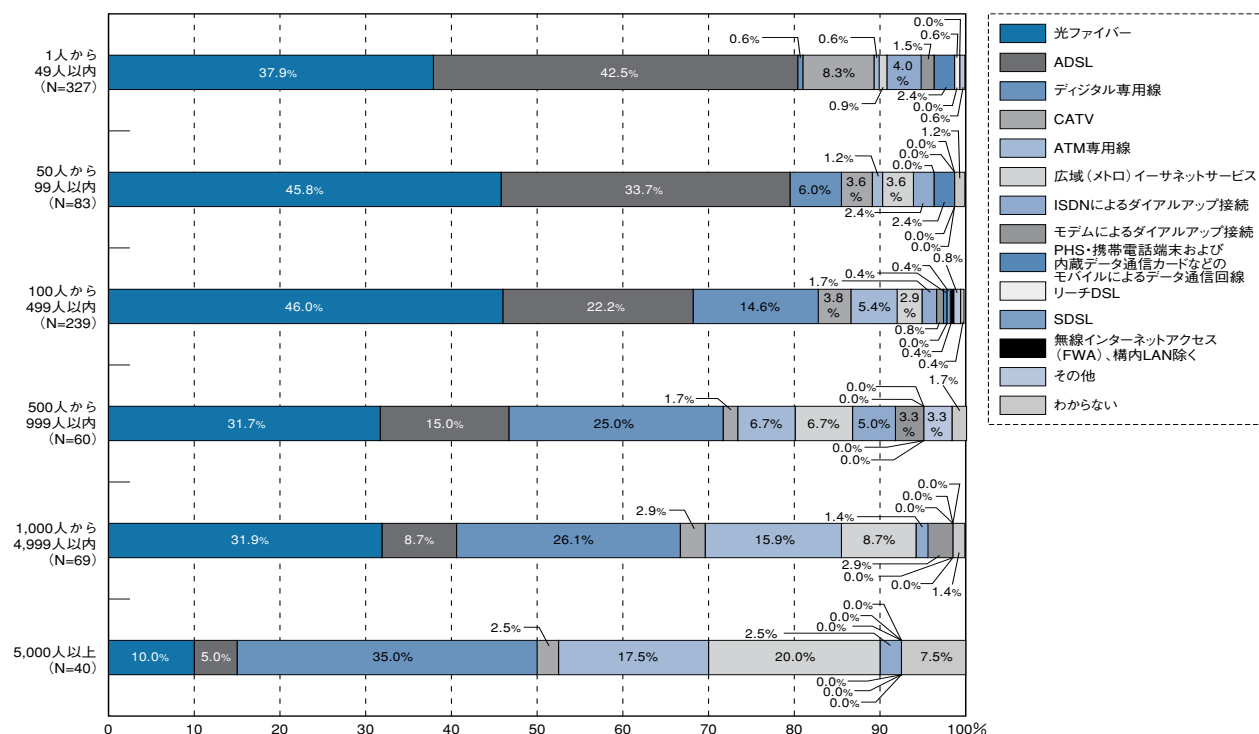


こちらは主に使われている通信回線を聞いているので、携帯電話やダイヤルアップによるアクセスは後退し、デジタル専用線やATM専用線が目立ってくる。CATVインターネットも意外に健闘している。

通信回線

従業員50人未満の企業が光ファイバー、ADSLを積極的に利用

資料4-1-3 従業員規模別 主な通信回線

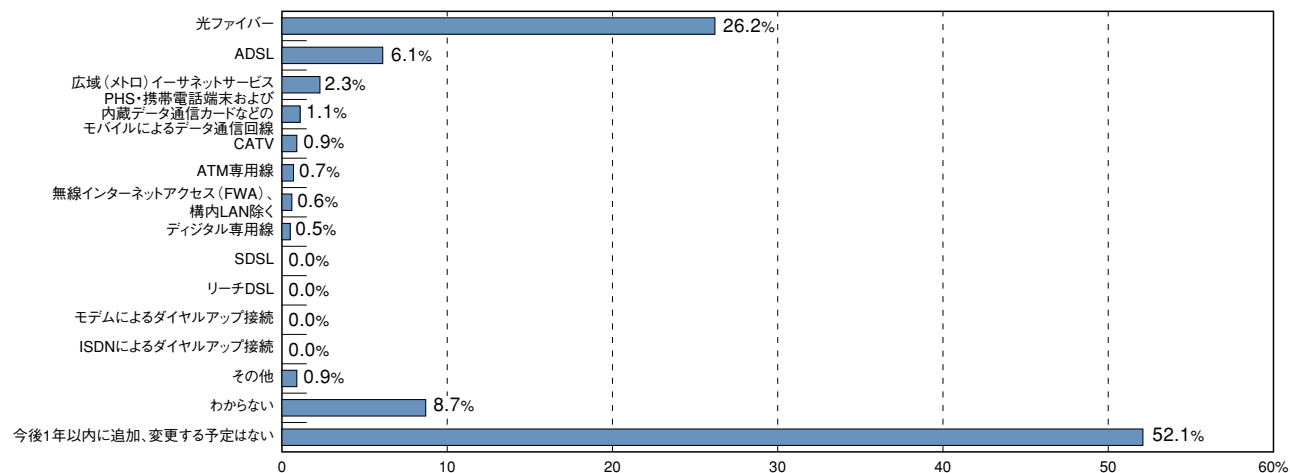


資料4-1-2の結果を、従業員規模別に分類したのがこの結果である。従業員50人未満の企業であっても、37.9%が光ファイバー、42.5%がADSLで接続されているというすばらしい結果が出た。特に4割近くが光ファイバー回線によるアクセスを実現している数字を目にすると、時代はここまで来たなという感慨がわいてくる。

©impress,2004

中小企業の動向を反映し、光ファイバー利用希望が26.2%

資料4-1-4 今後1年以内に採用したい通信回線 N=818



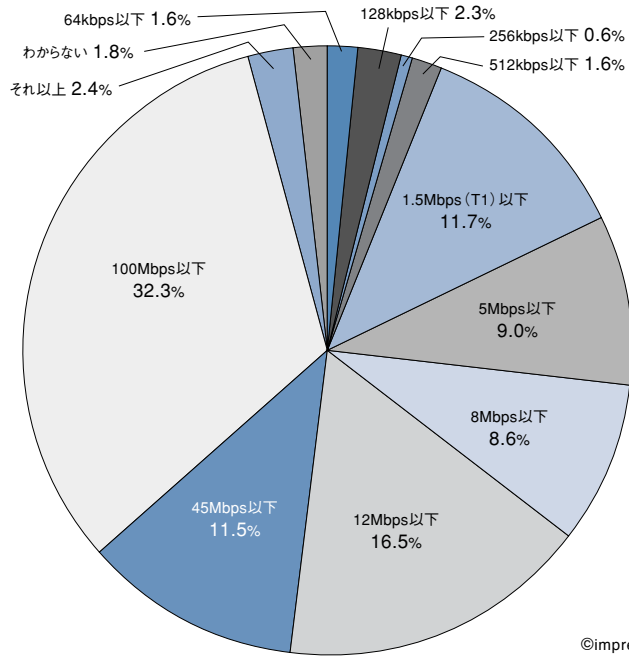
今後1年以内に利用したい通信回線では、中小企業の動向を顕著に反映し、光ファイバーの利用希望のみが目立つかたちになっている。

©impress,2004

通信回線

45Mbps超 100Mbps以下という回答が約3分の1

資料4-1-5 インターネット接続回線における最大通信速度 N=818

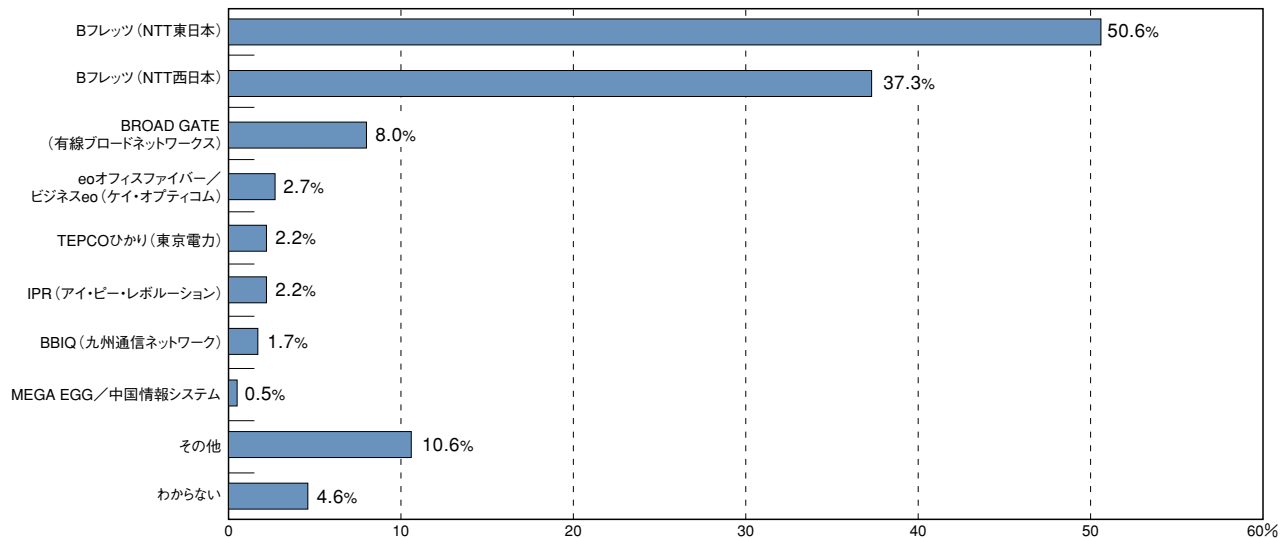


インターネット接続回線における最大通信速度の問いに関しては、45Mbps超 100Mbps以下という回答が約3分の1を占めた。しかし、その大部分は専用接続帯域ではなく、個人や中小企業を対象としたFTTHサービスだと考えられる。したがって100Mbpsといっても集線されているわけだが、それでも数Mbpsの時代と比べれば、天と地ほどの違いがある。

©impress,2004

光ファイバーはBフレッツが大多数を占める

資料4-1-6 契約している光回線提供会社 N=415



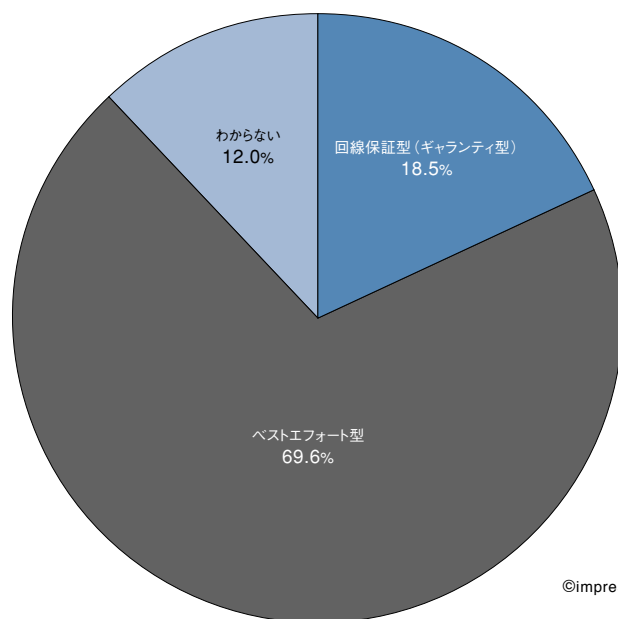
利用している光ファイバー通信サービス提供会社としては、NTT地域会社のBフレッツが大多数を占めているが、有線ブロードネットワークスも健闘していることが分かる。今後企業において、さらに光ファイバーを使ったインターネット接続サービスの利用が広がり、それとともに競争も促進されていくと思われる。

©impress,2004

通信回線

契約回線はベストエフォート型が3分の2を占める

資料4-1-7 契約回線の種別（ベストエフォートとギャランティ） N=818



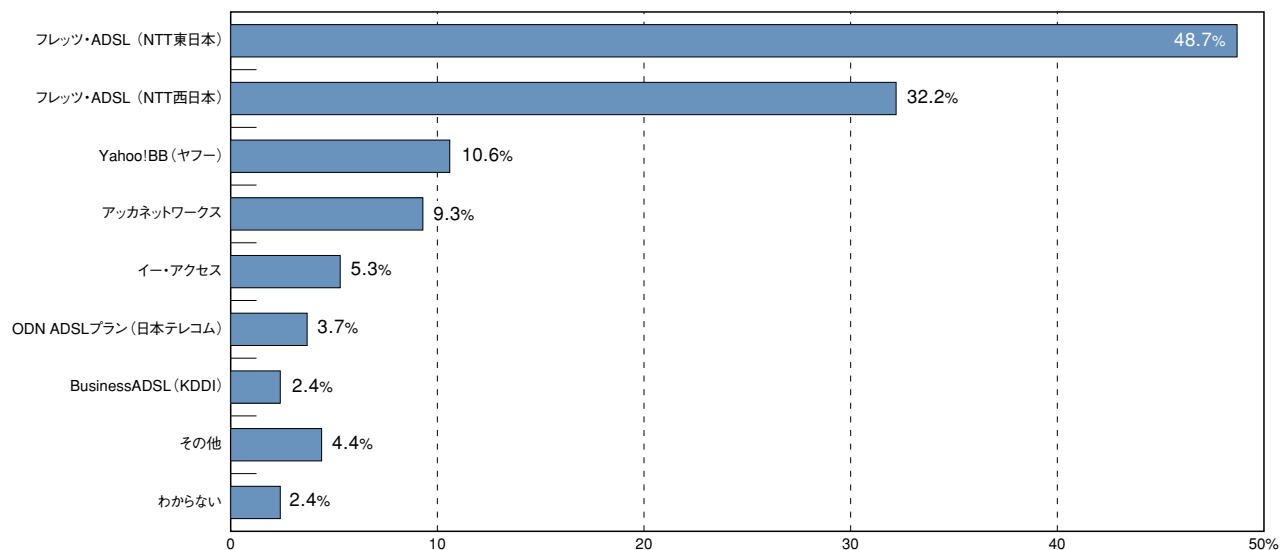
©impress,2004

インターネット接続の帯域については、ベストエフォート型が3分の2を占めている。インターネット接続サービスは本来的にベストエフォート型であるため、これも自然な回答だ。帯域が多少不安定であるかどうかよりも、サービスが中断されないということのほうが、業務利用では重要な要素だ。

通信回線

NTT系の業者が大多数を占めるが、ヤフーBBも健闘

資料4-1-8 契約しているADSL提供会社 N=454

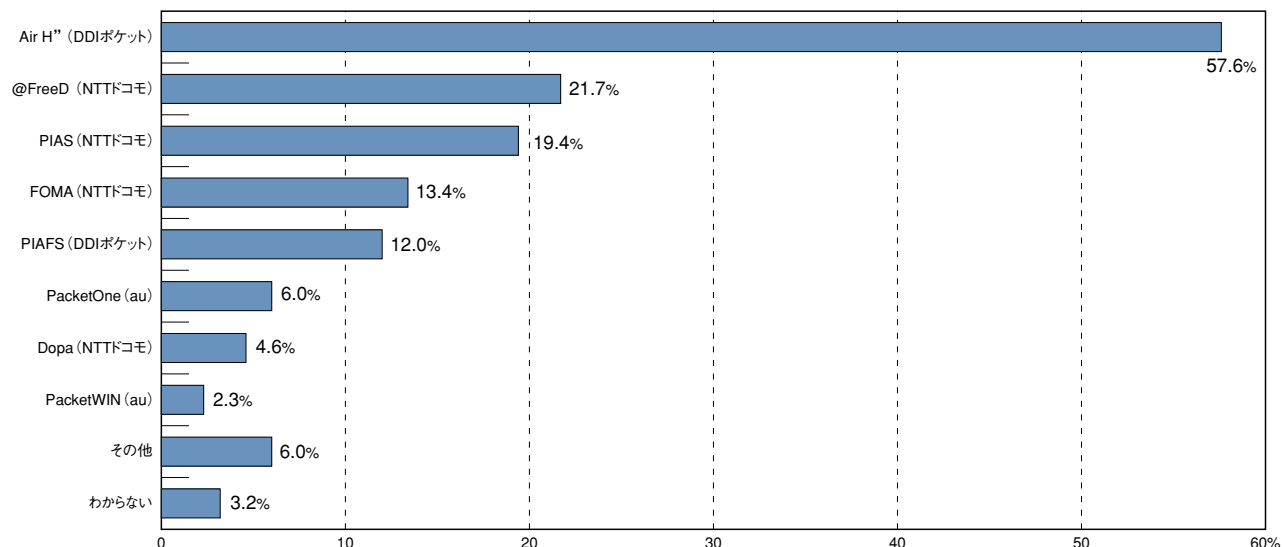


企業で利用されるADSLインターネット接続サービスについても、NTT系の業者が大多数を占めるが、個人向けADSLで大きなシェアを獲得しているヤフーBBも目立っている。他の質問で明らかになった光ファイバーの利用希望にどう対応していくかは今後の課題だ。

©impress,2004

モバイル回線業者ではDDIポケットが人気を獲得

資料4-1-9 契約しているモバイル用回線 N=217



契約しているモバイル回線業者では、DDIポケットが最大の人気を獲得した。同社はいち早く定額料金に取り組み、法人対応にも力を入れてきている。モバイル分野で今後予想される動きとしては、公衆無線LANサービスの利用が企業においてどのように進展していくかが注目される。

©impress,2004



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp